

含嗽剤

日本標準商品分類番号：87226

薬価基準収載

ポピヨドン[®]ガーグル7%

ポピドンヨード製剤



禁忌(次の患者には使用しないこと)
本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者



ヨシダ製薬

ポピヨドン[®] ガーグル7%



7%ポピドンヨード液

ポピドンヨードはポリビニルピロリドン(PVP)とヨウ素の錯化合物です。ヨウ素を遊離することにより殺菌作用を示し、その作用は継続的です。

本剤は、1mL中にポピドンヨード70mg(有効ヨウ素として7mg)を含む含嗽剤です。

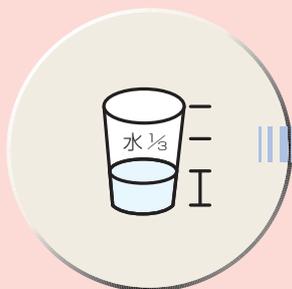
特 徴

- グラム陽性菌・陰性菌、真菌、結核菌及びHBV、HIV、一部のウイルスに有効です。
- 含嗽しやすくするため、微香性にしてあります。
- 注入しやすいヒンジキャップを採用しています。(250mL)
- 投薬に適した小包装があります。(30mL)

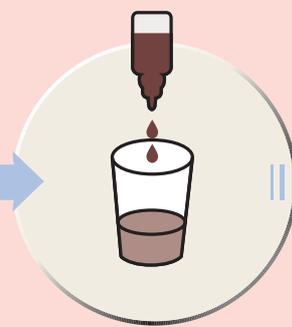


使用方法

以下の方法で、1日数回うがいしてください。
“使用のつどうおすすめてください。”



1 水を60mL
(コップ約 $\frac{1}{3}$)入れる。



2 通常のうがいの場合は
本剤2mL(1目盛)を
症状の激しい場合は
本剤4mL(2目盛)を入れる。



3 軽くふりまぜてうがい
して下さい。

有効性

各種細菌に対する殺菌効果

(ポピヨドン®ガーグル7%約30倍希釈液)

ポピヨドン®ガーグル7%の約30倍希釈液(有効ヨウ素0.02%)について、一般細菌および酵母に対する殺菌力試験を行いました。その結果すべてにおいて30秒以内に殺菌されました。

供試菌	殺菌時間
グラム陽性菌	<i>S. aureus</i> IID 980 30秒以下
グラム陰性菌	<i>P. aeruginosa</i> ATCC 9027 30秒以下
	<i>P. aeruginosa</i> IID 1042 30秒以下
	<i>P. putida</i> IFO 5121 30秒以下
	<i>B. cepacia</i> CI 30秒以下
	<i>E. aerogenes</i> IFO 13534 30秒以下
	<i>E. coli</i> IID 951 30秒以下
	<i>S. marcescens</i> IID 620 30秒以下
	<i>F. meningosepticum</i> RIMD 0614002 30秒以下
	<i>A. xylosoxidans</i> RIMD 0101001 30秒以下
真菌(酵母)	<i>C. albicans</i> TIMM 0134 30秒以下

試験方法：フェノール係数測定法の一部変法 作用温度：20℃

CI：臨床分離株

希釈方法

希釈倍数	15倍			30倍		
ポピヨドン®ガーグル7%	4mL	5mL	6mL	2mL	3mL	4mL
希釈する水の量*	60mL	75mL	90mL	60mL	90mL	120mL

*水はおよその量です。

ポピヨドン[®]ガーグル7%

Popiyodon Gargle 7% ●ポピドンヨード製剤

効能・効果、用法・用量、警告、禁忌(原則禁忌を含む)、使用上の注意等の改訂にご留意下さい。

日本標準商品分類番号	87226
承認番号	22000AMX00323000
薬価収載	2008年6月
販売開始	2008年6月
再評価結果	1980年8月

貯法：直射日光を避けて
室温保存
使用期限：3年(容器に記載)

禁忌(次の患者には使用しないこと)

本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

組成・性状

1. 組成

本剤は1mL中にポピドンヨード70mg(有効ヨウ素として7mg)を含有する。

添加物としてエタノール、サッカリンナトリウム、香料を含有する。

2. 製剤の性状

本剤は赤褐色の液で、特異な芳香がある。

効能・効果

咽頭炎、扁桃炎、口内炎、拔牙創を含む口腔創傷の感染予防、口腔内の消毒。

用法・用量

用時15～30倍(本剤2～4mLを約60mLの水)に希釈し、1日数回含嗽する。

使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

甲状腺機能に異常のある患者〔血中ヨウ素の調節ができず甲状腺ホルモン関連物質に影響を与えるおそれがある。〕

2. 副作用

総症例1,166例中副作用発現は11例0.94%であり、その内容は嘔気4例、口内刺激3例、その他不快感、口内のあれ、口腔粘膜びらん、口腔内灼熱感各1例であった。(再評価結果)

(1) 重大な副作用

ショック、アナフィラキシー様症状〔呼吸困難、不快感、浮腫、潮紅、蕁麻疹等〕(0.1%未満)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

種類\頻度	0.1～5%未満	0.1%未満
過敏症 ^{注)}	—	発疹等
口 腔	口腔、咽頭の刺激感等	口腔粘膜びらん、口内のあれ等
消化器	悪心等	—
その他	—	不快感

注) 症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

3. 適用上の注意

(1) 使用部位

含嗽用だけに使用させること。

(2) 使用時

ア) 用時希釈して使用させること。

イ) 拔牙後等の口腔創傷の場合、血餅の形成が阻害されると考えられる時期には、はげしい洗口を避けさせること。

ウ) 眼に入らないように注意すること。入った場合には、水でよく洗い流すこと。

エ) 銀を含有する補綴物等が変色することがある。

薬効薬理

ポピドンヨードはポリビニルピロリドンとヨウ素の錯化合物で、ヨウ素を遊離することにより殺菌作用を示し、その作用は持続的である。抗菌スペクトルは広く、グラム陽性菌・陰性菌、真菌、結核菌及びHBV、HIVを含む一部のウイルスに有効である。また抗生物質耐性菌にも有効である。

生物学的同索性

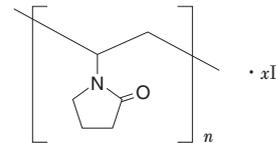
ポピヨドンガーグル7%と標準製剤を任意に希釈し菌液と接触させたとき、両剤の生存菌数の経時的変化には相関がみられ、生物学的同索性が認められた。

有効成分に関する理化学的知見

一般名：ポピドンヨード(Povidone Iodine)

分子式：(C₆H₉NO)_n · xI

構造式：



化学名：Poly[1-(2-oxopyrrolidin-1-yl)ethylene]iodine

性状：ポピドンヨードは暗赤褐色の粉末で、わずかに特異なおいがある。水又はエタノール(99.5)に溶けやすい。本品1.0gを水100mLに溶かした液のpHは1.5～3.5である。

取扱上の注意

1. 用時希釈し、希釈後は早目に使用すること。

2. 衣類に付いた場合は水で容易に洗い落とせる。また、チオ硫酸ナトリウム溶液で脱色できる。

3. 安定性試験

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、外観及び含量等は規格に範囲内であり、ポピヨドンガーグル7%は通常の市場の流通下において3年間安定であることが推測された。

包 装

規格	調剤包装単位コード	販売包装単位コード
250mL	(01)04987288212034	(01)14987288212833
30mL×50	(01)04987288212041	(01)14987288212802

2014年11月改訂



Y's Square

http://www.yoshida-pharm.com/

製造販売元

吉田製薬株式会社
埼玉県狭山市南入曽951

資料請求先

吉田製薬株式会社
東京都中野区中央5-1-10
Tel: 03-3381-2004

④1606KK
400069
2016年6月作成